

# デ・レーケと富山

高田技師（現在の土木部長に

相当）が内務省から許可を得た神

通川改修工事は、1896（明治

29）年に始まった。地元の文献で

は、同年の相次ぐ洪水を契機とし

て翌年着工と書かれているが、市

川紀一氏が発見した高田技師の

日記には、「1896（明治29）年

1月9日に測量を開始、同年1月

22日付で内務大臣からの施工許可

が富山県知事宛に送付された。同

年4月に頻繁に工事現場に向い

た」とあり、また、1895（明治

28）年12月の臨時県議会で改修工

事費が当該年度から3ヶ年継続工

事として承認されていることから、

1896（明治29）年に着手された  
と考えられる。

この改修工事は、デ・レーケが  
1895（明治28）年8月に提案し  
た分流路を開削する方法は採用  
せず、川幅を拡幅する計画であつ  
た。また、デ・レーケが障害物とな

るから撤去するように指摘した神  
通橋（明治15年に従来舟橋にか  
わつて架けられた木橋。明治27年  
に幅を広げて架け替えられた）は、  
拡幅に伴い橋長を28間（51m）延長  
する計画となつていた。

前述したが、工事が始まつた明  
治29年、神通川は、4月、7月、8  
月と合計4回の洪水に見舞われた。  
特に7月21日の洪水では富山市の  
約半数の家屋が濁流に洗われる大  
惨事となつたことから、富山市は  
県に請願書を提出した。その中に  
は、完全な治水を実現するために、  
蛇行している区間をショートカット

とする新たな河道を開削し、分流  
するという案が記述されていたと  
いう。前々回、明治24年8月7日  
に前田富山市長がデ・レーケに面  
会して分流案を提案したと紹介し  
たが、富山市側では分流案を押し  
声が強かつたのだろう。

第一期工事の費用は、用地買収  
面積14,500坪分を含めて、  
総額325,000円（当時※）で、  
全額県の予算で賄われた。とはい  
うものの、1896（明治29）年と  
1897（明治30）年には、県下の  
水害による災害費総額260万円  
余（当時※）のうち、70〜75%にお  
よぶ国庫補助金が交付されており、  
このお金が、内務省の同意を得て  
改修工事にも使われたのではない  
かと市川氏は述べている。

なお、高田雪太郎技師は、工事  
が着手された明治29年の8月に富  
山県を辞している。⑥

※参考／明治25年の貨幣価値。白米（10キロ）46銭。